

# ボテジャコの住む自然環境回帰、 その為の人工繁殖の実施

ボテジャコラスト  
代表 荒木 克己

## 活動報告

1月27日 シンポジウム

「ボテジャコの飼育と繁殖」 秋山県技官

参加者 75名

報道 朝日、京都新聞、BBCテレビ

4月20日 アースデイ 協賛参加

水槽展示 6本、パンフレット1500配布

草津JR駅前、大津西武百貨店前。

5月31日

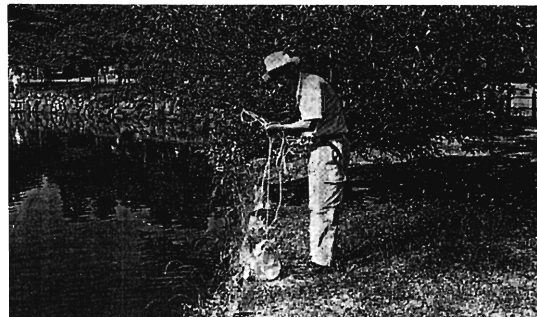
彦根市の好意で、彦根城堀で採取行動する。結果は棲息の形跡なし。

6月3日

宝酒造KK本社で授与式参加する。京都新聞にボテジャコトラスト他と掲載される。

## ぼてじゃこ 捕獲に挑戦

彦根城内堀でトラストのメンバー



ぼてじゃこを捕まえようと、捕獲器を設置するトラストのメンバー（彦根城内堀）

## 工事前に 激減危惧し

激減する淡水魚「ぼてじゃこ」の復活を目指して活動する「ぼてじゃこトラスト」(会 彦彦世話人のメンバー)らが三日、彦根城の内堀で、ぼてじゃこの捕獲に挑んだ。

ぼてじゃこはコイ科タナゴの俗称で、琵琶湖には七種外來種の増加などで急激に減っている。種類が生息する。体長十センチ程度に減っている。ほどで、以前は二センチ程度に減っている。

同トラストは近畿六府県を活動範囲とする。今年一月に結成した。メンバーは大学生と、両親も職業もさまさま。ぼてじゃこが減ってゆくの危惧などを計画している。今回は、彦根城の堀のし

く愛する人たちが集まり、今年一月に結成した。メンバーは大学生と、両親も職業もさまさま。ぼてじゃこが減ってゆくの危惧などを計画している。今回は、彦根城の堀のし

合わせたのが、ぼてじゃこの姿は見られなかった。

6月22日

農水省伊勢養殖研究所  
に行く、河島研究員から、人工交配法の講義  
と実技指導を受ける。  
玉城分所で遺伝子組み  
替え魚を見学する。

7月21日

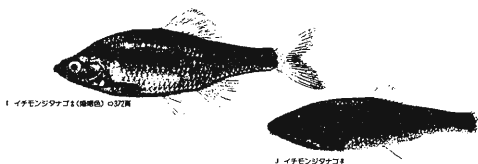
シンポジウム「タナ  
ゴの人工増殖法」

農水省 川村研究員  
参加者 36名 少ない  
が真剣な人達です。  
報道参加 朝日、京都  
新聞。

## 第2回講演会

演題：ぼてじゃこの繁殖などについて

講師：水産庁養殖研究所 河村功一先生



イナモンシタナゴ(雄成魚) 0327

イナモンシタナゴ

日時：7月21日(日) 午後1時～4時

場所：滋賀県立琵琶湖研究所  
520 大津市打出浜1-10  
Tel. 0775-26-4800

申し込み：Faxまたは葉書にて下記へ  
520-21 大津市瀬田大江町横谷1-5  
龍谷大学理工学部 文彦  
Fax. 0775-43-7483 Tel. 43-7470

ボテジャコを観察する参加者たち (琵琶湖文化館)



### ボテジャコ

# 生息地 確保しよう

## 大津 トラスト運動初会合

最近、琵琶湖でめっきり  
見られなくなったボテジャ  
コ(タナゴ類)の生息地を  
確保しようと、「ぼてじゃ  
こトラスト」運動の初会合  
が二十七日、大津市打出浜  
の琵琶湖文化館で開かれ、  
約六十人の市民がボテジャ  
コの種類や生態を学んだ。  
かつては琵琶湖でごく普  
通にみられたボテジャコな  
ど、昔ながらの琵琶湖の魚

卵を産みつける一枚貝の生  
や生き物を捕って観察でき  
る場所を子供たちに与えた  
い、と龍谷大の笠文彦助教  
授らが運動を提唱。私有地  
のため旭や、休耕田を借り  
て「ぼてじゃこ池」を作ろ  
うと計画している。

この日は、琵琶湖文化館  
の秋山広光学芸員がスライ  
ドで、日本にいる十数種類  
のタナゴ類や、タナゴ類が

態などを紹介。「琵琶湖周  
辺のタナゴ類は、同じ種類  
でも地域差があるので、無  
秩序な放流は遺伝的に問題  
がある」と指摘した。

その後、運動の進め方に  
ついて質疑応答が行われ、  
参加者からは「ため池の手  
入れを手伝うかわりに飼  
わせてもらうてはどうか」  
などの意見も出されてい  
た。

事務職員を募集  
守山市社協 守山市社協  
守山市社会福祉協議会  
は、四月一日付で事務職員  
(大卒程度)を採用する。  
対象は、六九年四月二日  
七四年四月一日に生まれた  
人。応募は二月九日締め切  
り。十八日に一次試験を行  
う。詳細は同協議会☎07  
75(83)2923へ。

8月3日

安曇川町役場の協力で、掘川で魚と水棲動物の調査をする。参加は児童と保護者38名 指導 琵琶湖博物館準備室 秋山 研究員  
午後、彦根城堀で再調査するも棲息形跡なし。

9月15日

大津市教育長経由で、市内小学校に飼育希望の募集通達をして貰う。  
真野北、唐崎、雄琴、藤尾、瀬田、瀬田北、瀬田東、瀬田南、仰木の里南、仰木の里東、仰木の里、真野、伊香立、膳所、下坂本、田上、晴嵐、南郷中、日吉台、南郷、堅田、日吉の22校から希望があった。  
魚が不足するので、平安神宮の池で採取させて貰い、58匹を入手する。

10月1日

市内小学校へ魚10匹と器具一式、マニュアルの配布を開始する。会員の飼育魚の提供を受けるが、不足するので南郷水産センターで分譲して貰う。80匹

10月29日

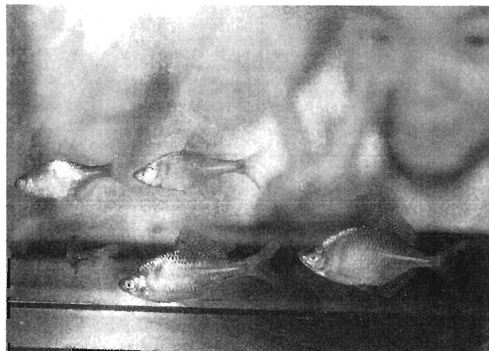
京都新聞に「ボテジャコ故郷に帰る」と、カラー写真入りの記事掲載があった。報道効果はあり、数日後に久世東小学校から寄付する旨の電話を貰い、12日に受領に出向く。

# ボテジャコが故郷に帰る

市民グループ 平安神宮の池から大津の小学校へ贈る

昔琵琶湖には、こんな魚が住んでいた。

琵琶湖からほとんど姿を消したボテジャコが、大津市内の平安神宮の池から採取された。ボテジャコは、今も昔の琵琶湖が残る京都府の安曇川に多く生息している。平安神宮の池から採取されたボテジャコは、色鮮やかで、味もおいしい。ボテジャコは、ボテジャコが故郷に帰るという。ボテジャコは、ボテジャコが故郷に帰るという。ボテジャコは、ボテジャコが故郷に帰るという。



水槽に入れられたボテジャコを観察する児童たち (大津市の仰木の里東小)

## 鮮やかな色 水槽でスイスイ

## 児童らの目輝く

を盛り入れている平安神宮の池では、ハルハル水質対策として導入した水質改善が外來魚を駆除。今でもイチモンシタナゴなど、種類豊富なボテジャコは、昔の琵琶湖の魚が繁殖する環境が保たれている。昨年末、結成されたばかりのボテジャコ愛好会が、ボテジャコを知らない児童の小学校に、琵琶湖の昔の環境への関心を持ってもらおうと、平安神宮のボテジャコを譲り受け、希望があった大津市内の小学校に配布した。配布されたのは、愛好会から譲り受けるなどして集めたものもれたタイリクバラナゴ約1匹、ボテジャコの中では最も飼育しやすい、タナゴ類を知ってもらうのに適している、と導入した。同市内の東小では、二、三年組の授業に、供養のボテジャコが、1匹の水槽で飼育された。ボテジャコは、鮮やかな色鮮やかなボテジャコが、ボテジャコが故郷に帰るという。ボテジャコは、ボテジャコが故郷に帰るという。

11月24日

真野太田の池で、地元協力の許に、放流会を実施する。真野東小学校児童と、会員の子供さんの手で、3種の魚と2種の貝を放流する。報道参加、朝日、京都、読売新聞とテレビ。テレビは同日夕刻と次の朝放送される。

参加者 児童含めて48名。

11月25日 京都新聞



ポテジャコを池に放流する会員や子供たち  
(大津市真野三丁目)

ブラックバスなどの台頭一してはじくとラ  
で激減した琵琶湖の在来種  
スト、(大津市 元木克巳  
ポテジャコの復活を目指  
代表の会員たちが、二十

**真野の池**

第1回放流会

トラスト会員

成魚中心300匹

四日、大津市真野三丁目の  
池で、第一回のポテジャコ  
放流会を行った。  
ポテジャコは、琵琶湖と  
その周辺でよく釣れたコイ  
科クダガリの俗称。同会は、  
身近な魚だったポテジャコ  
を通して琵琶湖の自然につ  
いて考えよう、と今年一月  
に滋賀県内外の有志で結成  
し、ポテジャコを放流でき  
る池や休耕田を探してき  
た。

この日放流したのは、堅  
田署近くの真野川右岸にあ  
る通称「太田の池」(約二百  
平方メートル)。地元の子もた  
ちを含む約三十人が集ま  
り、膳所地区の会員が提供  
したアブラボエ、ヤリクダ  
ゴなど三種の成魚を中心  
に約三百匹をバケツで池に  
放った。会員らは池を泳ぐ  
ポテジャコを見ながら「順  
調に増えて、子どもたちが  
釣りを楽しめるようになった  
してほしい」と期待していた。

11月30日

シンポジウム、ビワコのしじみと二枚貝

ビワコ博物館 中井 学芸員

参加者 32名 飼育経験者が大半でした。貝の飼育が困難な事が認識が出来ました。

12月4日

琵琶湖放送の電話訪問に応じて、質疑応答する。同時放送される。

12月13日

読売テレビの希望で、平安神宮での採取を。録画されるが時期が悪いので、形だけと説明するが、どうしても録画があった。後日放送されたが、後味は悪い思

12月15日

草津水生植物園から、魚を寄付して欲しいと、申し出があり応ずるが、ロータス館の高温水槽なので、生存の保証はしかねると、念を押した上で寄付した。2月23日に確認したら10匹は生存していた。意外に高温にも強い魚だと、当方も予想外の結果に驚く。水温は32度もあった。

12月20日

市土木部の通知で、田上改修河川調査する。

1月5日

古墳時代からの狭山池に、タナゴがいるとの報告で、調査にゆくが冬期では確認不能だった。感ではたしかに棲息すると思われる。

1月22日

県広報室から電話があり、ボランティア団体登録して欲しい、との希望あり。応諾する。

3月30日

県エコライフ課の環境ボランティア連絡会に出る。質問で行動の実際を報告する。



11月24日 真野での交流会スナップ

宛先	龍谷大学理工学部 笠文彦 様
発信者	大津市立真野北小学校 総務主任 滋賀県小学校教育研究会環境部会研究委員 日本動物心理学会会員 日井隆司
件名	「ぼてじょご」のお礼について
<p>昨日は、遠いところタナゴ・モロコを届けていただきありがとうございました。飼育セットまで、準備していただき、感謝しております。到着したことを聞いた子供たちは、長い間待ち望んでいたかのように、急いで給食を食べ、掃除もさぼって、観察していました。殆どの子が、初めて実物を見たようで、その美しさに感動していました。これを機会に環境についての学習を考えておりますが、とりあえずお礼に変えてご連絡いたします。</p> <p><small>また、私自身、光屈性(photoperiodism)の研究をしていますが、タナゴが、光屈性を示すことを送っていたという資料から知り興味をそられました。そのことについても合わせてお礼を申し上げます。</small></p>	
<p>〒520-02 大津市総町15-2 大津市立真野北小学校 校長 朝山亨 ☎ 0755-73-8860 校長 (担当 日井隆司) FAX 0755-73-9544</p>	

# 感想

一年間助成金のお陰で、活発な活動が出来ました。一番の感激は小学校に寄付に行った時の、児童の瞳の輝きです。教育と体験で将来の環境人に、なるであろうと確信しました。環境ボランティア交流会で、御社の「四万十川フォーラム21」等の事を断りなく口にしてしまいましたが、褒めたたえて行ったつもりですが、ご迷惑だったのかも知れませんが、ご容赦下さい。

## ブラックバスなど急増で激減

激減している琵琶湖のボテジャコ



ブラックバスなどの台頭で激減した琵琶湖の在来種ボテジャコ(タナゴ類)の生息場所を確保しようという「ほてじゃこトラスト」運動を、県内の大学助教授らが計画している。借り上げた池や休耕田にボテジャコを放し、身近な魚として子供たちに親んでもらう考えで、今春から本格的な活動に乗り出す。

# 琵琶湖の在来種ボテジャコ救え

## のら 津さん 大竺 今春から 本格活動

「ほてじゃこトラスト」も釣った先から捨てるほに乗り出したのは、水辺のどよめ釣れたが、ブラックバスやブルーギルなどの急増とともに激減し、最近ことさらに姿を見なくなっているボテジャコと呼ばれた。ボテジャコは大きくても体長十センチ程度の鱗(ひし)形の小さく、琵琶湖とその流域では、かつて子供たち

トラスト運動は「昔は釣れるのはボテジャコばかりだった」といふ大竺さんが、昨年夏に思いついた。すでに7470人。

に十人以上の賛同者があり、一月二十七日には琵琶湖文化館でボテジャコについての講演会を開き、会としての活動を始める。

大竺さんは昨年夏、民間文化振興財団の学術奨励賞を受賞しており、その副賞五十万円を活動資金にあてて、一般の人には一人千円でも二千円でも可能な範囲で協力を求めるという。

大竺さんは「小さな試みだが、肩ひじ張らず、できることからやるつもり。自然保護に関心があり、何かやりたいと思うている人に参加してほしい」と話している。問い合わせは、大竺さんの研究室(0775)430775へ。

## 池や休耕田に放流も